

## 米国農務省穀物等需給報告(2012年10月11日発表のポイント)

米国農務省は、10月11日(現地時間)、2012/13年度の6回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

〔 2012/13年度の穀物全体の生産量は消費量を下回るが、大豆の生産量は消費量を上回る見込み 〕

### 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:22億2,827万t(対前年度比 3.5%減)
- ② 消費量:22億7,538万t(対前年度比 1.2%減)
- ③ 期末在庫量: 4億2,128万t(対前年度比10.1%減)  
期末在庫率:18.5%(1.8ポイント減)

#### 【主な品目別の動向】

- 小麦:生産量は、前年度、悪天候による被害を受けた米国の他、インドで増産となるものの、乾燥等の影響を受けたロシアをはじめとする旧ソ連諸国、豪州、EUで減産となり、世界全体では前年度を下回る見込み。また、消費量はインド、米国等を除き前年度より減少するものの、世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下。
- ① 生産量:6億5,305万t(対前年度比 6.1%減)…米国、インド等で増加、ロシア、カザフ、ウクライナ、豪州、EU、アルゼンチン等で減少
  - ② 消費量:6億7,822万t(対前年度比 2.5%減)…インド、米国等で増加、ロシア、ウクライナ等で減少
  - ③ 期末在庫量:1億7,300万t(対前年度比12.7%減)  
期末在庫率:25.5%(3.0ポイント減)
  - ④ 前月からの主な変更点:生産量は豪州で乾燥により下方修正、消費量は米国で上方修正。
- とうもろこし:生産量は、主産国の米国でコーンベルトの高温乾燥により減産となり、前月予測からも単収の悪化によりわずかに下方修正(272.5→271.9百万トン)され低水準、EUも高温乾燥により減産となり、世界全体では前年度を下回る見込み。また、消費量は、米国で前年度より減少し、世界全体でも減少する見込み。米国では、期首在庫量の下方修正等から、期末在庫率は5.6%と、前月予測(6.5%)に比べ0.9ポイント下方修正。
- ① 生産量:8億3,902万t(対前年度比 4.4%減)…中国、アルゼンチン、メキシコ、南アで増加、米国、EU、ブラジル等で減少
  - ② 消費量:8億5,329万t(対前年度比 2.3%減)…中国、ブラジル等で増加、米国、EU等で減少
  - ③ 期末在庫量:1億1,727万t(対前年度比 10.8%減)  
期末在庫率:13.7%(1.4ポイント減)
  - ④ 前月からの主な変更点:大きな変更なし。
- 米(精米):生産量は、中国や東南アジア諸国で増産となるもののインドの減産により、世界全体では前年度並みとなり、中国、インド等の消費量の増加から、世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は低下。
- ① 生産量:4億6,510万t(対前年度比 0.0%増)…中国等で増加、インド等で減少
  - ② 消費量:4億6,858万t(対前年度比 2.3%増)…中国、インド等で増加
  - ③ 期末在庫量:1億 197万t(対前年度比 3.3%減)  
期末在庫率:21.8%(1.2ポイント減)
  - ④ 前月からの主な変更点:大きな変更なし。

### 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、米国はコーンベルトの高温乾燥により減産となるも、前月予測から単収・収穫面積の改善により上方修正(71.7→77.8百万トン)。一方、南米は作付面積の増加見込みにより増加し、世界全体では前年度を上回る見込み。米国の期末在庫率は、生産量・輸出量の上方修正等から4.4%と前月予測(4.3%)よりやや上方修正。

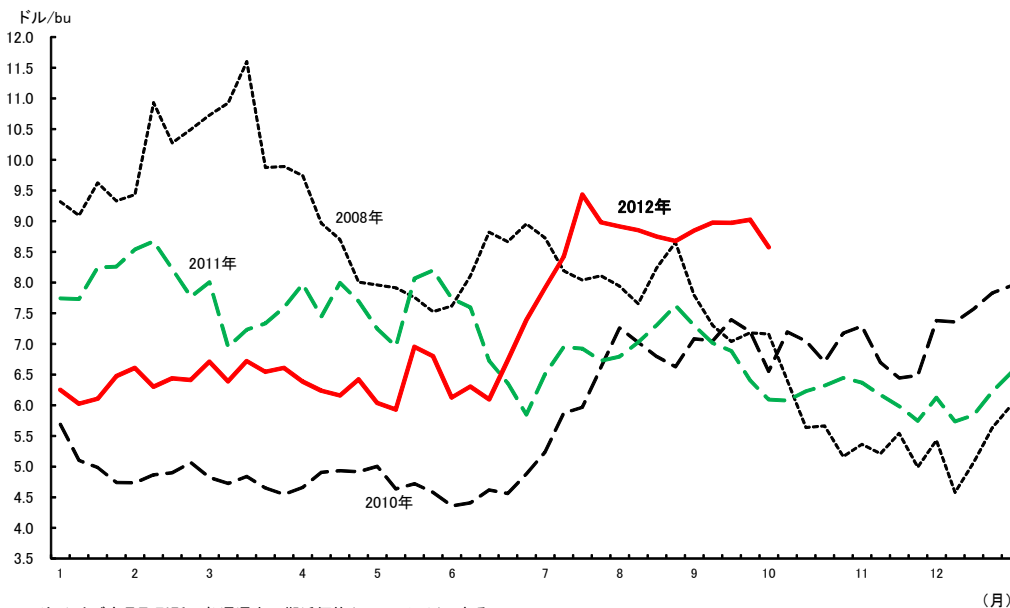
- ① 生産量:2億6,428万t(対前年度比 11.0%増)…ブラジル、アルゼンチンで増加、米国で減少
- ② 消費量:2億5,876万t(対前年度比 1.8%増)…中国、アルゼンチン等で増加、米国で減少
- ③ 期末在庫量: 5,756万t(対前年度比 5.1%増)  
期末在庫率:22.2%(0.6ポイント増)
- ④ 前月からの主な変更点:生産量は、米国で単収・収穫面積の改善により上方修正。

## 世界の穀物の価格動向(2012年)

- 小麦:8.58ドル/bu(前年同時期の価格:6.08ドル/bu)  
(価格は、シカゴ商品取引所における10月第1週末の期近価格。)

2011年1月以降、米国冬小麦の冬枯れ懸念、中東、北アフリカ諸国の輸入需要、中国冬小麦地帯の乾燥懸念等により値を上げたものの、2月以降、需要減退懸念から値を下げた。3月半ばから5月中旬にかけて、米国冬小麦の作柄懸念やとうもろこしの高騰に追随して値を上げたものの、5月下旬以降、ロシア首相の穀物輸出禁止解除の明言及び7月1日からの解除、北半球での収穫の進展等から値を下げた。7月上旬以降、とうもろこしの代替需要としての期待、米国で春小麦の収穫遅延・減産の懸念、冬小麦の次年度作付に向けた土壌水分不足等で上昇したが、9月以降、世界的な景気後退懸念、ロシア産との競合や豪州産の豊作見込み、全米四半期在庫報告で在庫量が事前予想を上回ったこと等から値を下げた。12月中旬以降、底値感や南米の作柄が懸念されたとうもろこしの上昇に追随して値を上げた。

2012年1月以降、世界的に在庫が豊富な中、6ドル/bu台前半～半ばで推移し、5月中旬には米国南部やEU東部、旧ソ連諸国、豪州等での乾燥天候による作柄懸念から一時値を上げたものの、その後の各地の降雨により値を下げた。6月半ば以降、高温乾燥で被害を受けた米国産とうもろこしの急騰に追随したことに加え、旧ソ連諸国の減産見込みもあって高騰したものの、8月以降、米国産春小麦の収穫進展、米国冬小麦地帯での降雨等から現在8ドル/bu台半ばで推移。



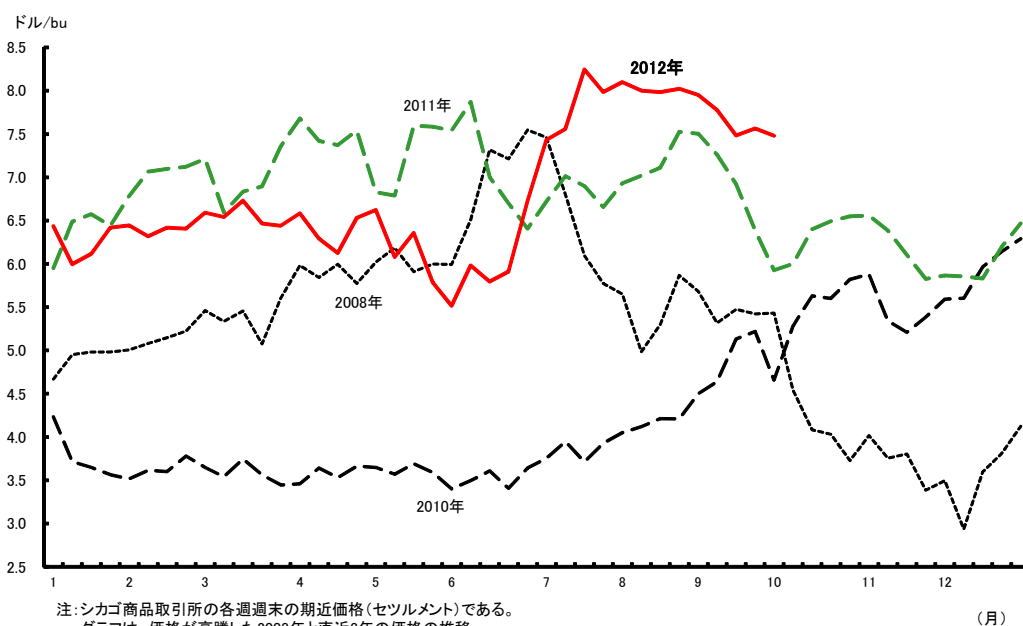
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし:7.48ドル/bu(前年同時期の価格:6.00ドル/bu)  
(価格は、シカゴ商品取引所における10月第1週末の期近価格。)

2011年2月以降、原油価格の高騰によるエタノール需要増加の見込み、低水準の在庫見直しから値を上げた。その後、米国の四半期在庫報告を受け需給の逼迫懸念が強まり、4月11日には史上最高値を更新(7.76ドル/bu)し、6月10日には、米国の作付け遅れ等から、史上最高値を再度更新した(7.87ドル/bu)。

6月半ば以降、作付けの進捗や、米国作付面積報告での面積や米国四半期在庫報告での在庫量が市場予想を大幅に上回ったこと等から値を下げたものの、7月以降、米国で7月から8月の高温乾燥による受粉等への影響から値を上げた。9月以降、世界的な景気後退懸念や飼料用小麦による代替、全米四半期在庫報告で在庫量が市場予想を上回ったこと等から値を下げた。10月以降、中国の買い付け期待から一時上昇したが、11月以降、輸出税の廃止されたウクライナ等の黒海地域産や南米産との競合により値を下げた。12月中旬以降、南米産地の高温・乾燥天候による作柄懸念により値を上げた。

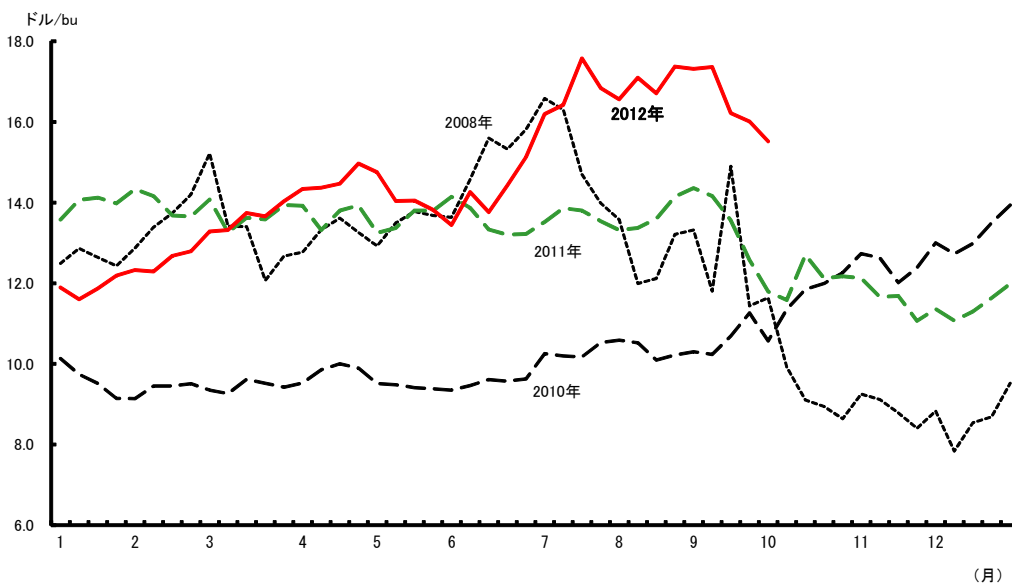
2012年1月以降、6ドル/bu台半ばで推移したものの、3月半ば以降、米国の作付面積が1937年以降最大と見込まれたことや、例年以上の作付進捗から値を下げた。4月半ば以降、中国等の堅調な輸入需要から値を戻したものの、米国産の順調な生育やブラジルの冬とうもろこしの増産等から値を下げた。6月以降、米国コーンベルトでの受粉期を通じた高温乾燥による作柄への影響から値を上げ、7月に最高値8.25ドル/bu、8月21日には8.31ドル/buと最高値を更新したものの、9月以降、収穫の進展等から値を下げ、現在7ドル/bu台半ばで推移。



● 大豆:15.52ドル/bu(前年同時期の価格:11.58ドル/bu)  
 (価格は、シカゴ商品取引所における10月第1週末の期近価格。)

2011年は、2月以降のブラジル等での豊作見込みや、需要減退懸念、5月の米国での低温多雨による作付遅れ等があったものの、価格は概ね横ばいを続けた。8月以降、米国で土壌水分不足による低単収見込みから値を上げたが、9月以降、世界的な景気後退懸念や南米の豊富な供給力、全米四半期在庫報告で在庫量が前年同期を上回ったことや、11月以降の南米の順調な作付け等から値を下げた。12月中旬以降、南米産地の高温・乾燥天候による作柄不安から値を上げた。

2012年1月以降も、引き続き南米産の減産見通しや米国作付意向面積の伸び悩み、中国等の輸入需要から値を上げ一時15ドル/buまで達したが、5月中旬以降、米国で平年を上回るペースでの作付けの進展や、その後の初期生育期の良好な天候から値を下げた。6月以降、米国では例年より早い生育進捗となったが、コーンベルトの開花期の高温乾燥による作柄への影響懸念から、7、8月と最高値を更新し、9月4日には17.71ドル/buと再び最高値を更新。その後、収穫の進展から値を下げ、現在は15ドル/bu台半ばで推移。



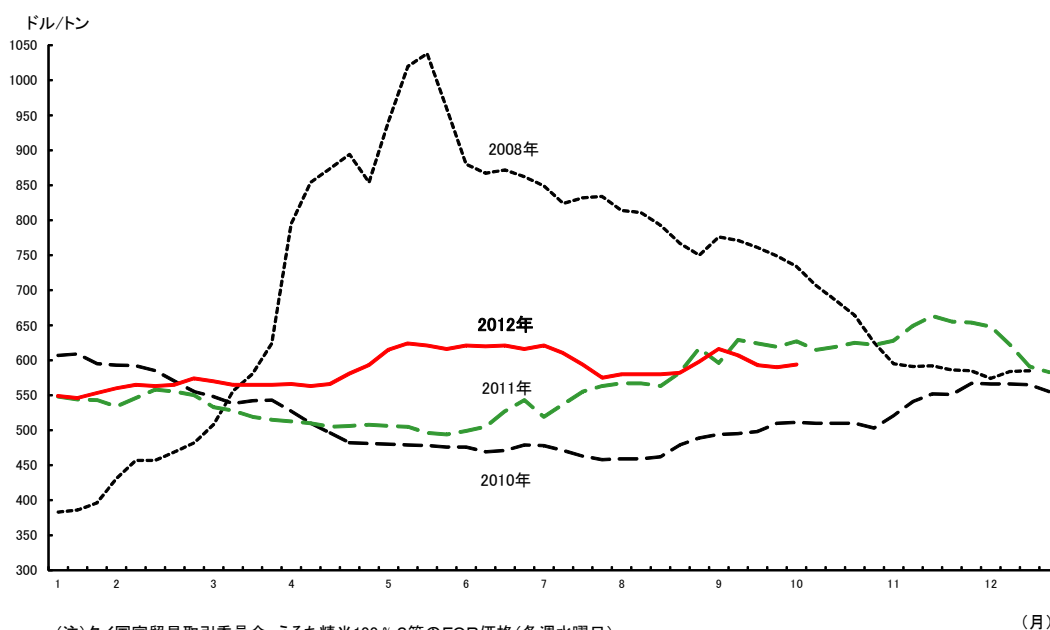
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

● 米:594ドル/トン(前年同時期の価格:615ドル/トン)

(価格は、タイ国家貿易取引委員会における10月(第1水曜日)のFOB価格である。)

2011年1月以降、タイ、ベトナムでの収穫による供給量の増加や新たな輸入需要が見込めないこと等から値を下げた。6月以降、タイで担保融資制度(実質的な国の買上げ制度)が再導入されるとの見通し(10月7日再導入)から値を上げたものの、11月中旬以降、輸出を再開した安価なインド産等との競合等により値を下げた。

2012年4月以降、タイで担保融資制度による買上げで輸出供給量が引き締まり、600ドル/トン台前半で推移していたが、政府在庫の放出や輸出需要が落ち着いていることから、現在、500ドル/トン台後半から600ドル/トン台前半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年1月	2月
113.15	107.49	113.26	116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	82.63	82.53
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
81.79	83.35	81.23	80.51	79.47	77.22	76.84	76.77	77.54	77.85
24年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
76.97	78.45	82.43	81.49	79.70	79.32	79.02	78.66	78.17	

注: 東京市場銀行間取引、直物相場終値平均(日本経済新聞)

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年度	23年1月	2月
35.14	58.99	49.49	41.59	85.22	94.68	51.29	61.77	51.02	50.43
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
55.95	52.43	51.84	52.95	51.94	51.09	52.19	56.16	55.64	54.96
24年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
50.24	45.90	47.01	51.01	48.60	44.71	45.77	44.49	42.71	

注: 米国ガルフー日本間(穀物、パナマックス級; World Maritime Analysis Weekly Report)

19年4月よりパナマックス級のサイズ変更(65,000DWT→72,000DWT)

24年9月の数値は、24年10月5日現在の暫定値

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年度	23年1月	2月
31.04	41.40	56.56	66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	89.58	89.74
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
102.98	110.04	101.36	96.29	97.34	86.34	85.61	86.43	97.16	98.58
24年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
100.32	102.26	106.20	103.35	94.72	82.41	87.93	94.16	94.57	

注: 内閣府「海外経済データ(平成24年8月)」

24年9月の原油価格(WTI)は「U.S. Energy Information Administration」の週別価格の平均値。